

LogiCue(ロジキュー) 12

マニュアル

2021/4/12



NuDelta Digital

目次

[目次](#)

[1. インストール方法](#)

[2. 操作方法](#)

[“Standby”ボタン](#)

[“Go”ボタン](#)

[確認機能](#)

[3. キューライト](#)

[取付穴](#)

[インジケータライト/選択ボタン](#)

[LED読み出し](#)

[カラーモードの選択](#)

[Red/Green/BlueとRed/Green モード](#)

[アドレスの選択](#)

[セルフテスト機能](#)

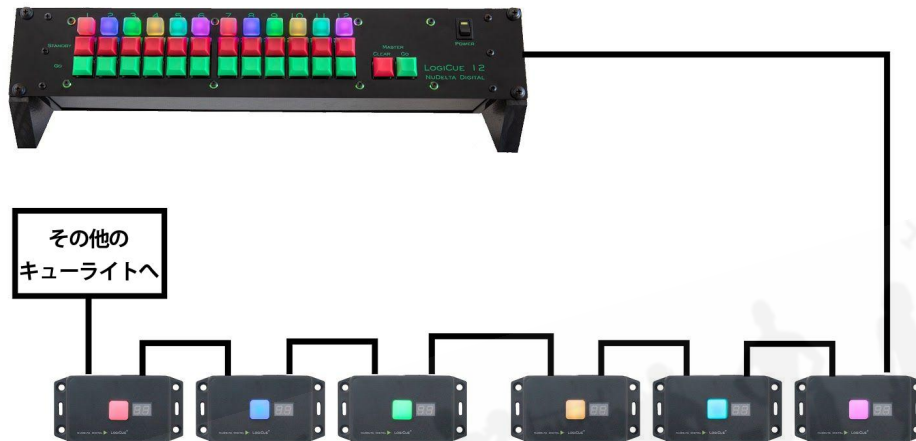
[インジケータの明るさ](#)

[DMX出力](#)

[4. トラブルシューティング](#)

1. インストール方法

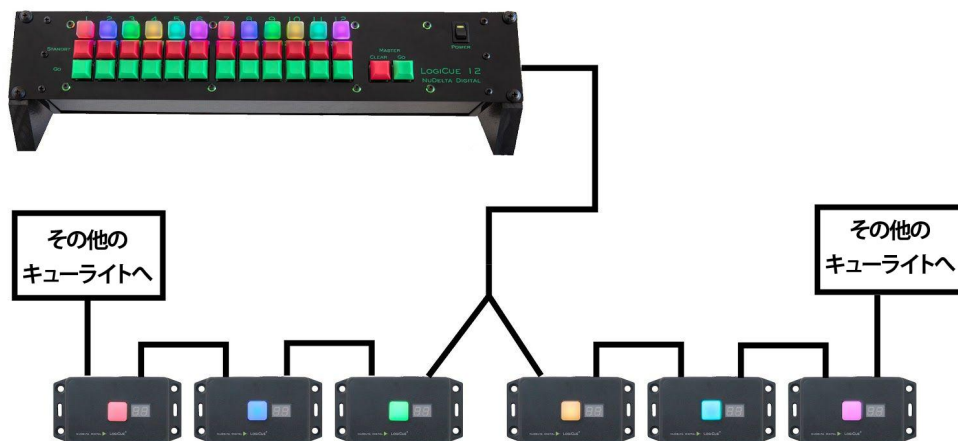
LogiCue 12コントローラーは、最大12のキューライトに接続することができます。信号は、コントローラーからキューライトに送信され、1つのキューライトから次のキューライトにリンク接続が可能です。



LogiCueシステムの信号は、一般的によく使われる”Y”ケーブルまたはその他の2又ケーブル(※本製品には含まれていません)を使用して分岐することもできます。



トランスで絶縁されたスプリッターやデジタルオーディオスネークでの配線はできません。



LogiCueシステムは、標準のマイクケーブルで接続するように設計されています。すべてのマイクケーブルが基準を満たしているわけではありません。1本のストランドしかない安価なケーブルでは、LogiCue信号のキューライトに電力を供給するうえで十分な電流を通電することができないため、低品質のケーブルでは機能しない場合があります。

LogiCueシステムは、コントローラーと最後のキューライトの間の合計ケーブルの最大300mだけでのケーブル距離での動作確認ができております。この距離を超えると、信号が断続的になるか、機能しなくなる可能性があります。

LogiCue 12コントローラーとキューライト間の接続は、1本の長いケーブルまたは複数の延長ケーブル連結での使用が可能です。パッシブオーディオスネークも使用できます。一部のオーディオスネークは、複数のキューライトに電力を供給できない可能性がある非常に細いゲージのワイヤーで作られているためご利用になれない場合があります。オーディオスネークのケーブルタイプの1チャンネルだけでの通電が難しい場合は、別々のチャンネルを使ってみてください。別チャンネルを使うことにより、データーをさらに安定して配信することができます。

2. 操作方法

出力コネクタからXLR3ピンのマイクケーブルを使い、キューライトに接続します。LogiCue 12の背面にある電源コネクタソケットに電源コネクタプラグを挿入します。LogiCue 12の前面にある電源スイッチをオンにします。

Logi Cue出力

DMX出力

電源入力



出力コネクタピン配列:

- 1:アース
- 2:+ 18ボルトDC
- 3:シグナル

電源を入れると、LEDインジケータは次の2色のいずれかになります。

- キューライトが接続されてアドレス指定されている場合、そのチャンネルのLEDインジケータが緑に変わります。
- アドレス指定されたキューライトがない場合、そのチャンネルのLEDインジケータはオフになります。

“Standby”ボタン

赤の“Standby”ボタンの1つを押すと、対応するチャンネルがスタンバイモードになります。LEDインジケーターの色は、対応するキューライトのカラーモードによって異なります。つまり、キューライトの色によって、コントローラーのスタンバイ色が決まります。キューライトの色の変更については、「[3. キューライト](#)」で説明しています。



“Go”ボタン

“Go”ボタンを押すと、LEDインジケーターLEDが、オフになります。(または、Red/Green/BlueまたはRed/Greenカラーモードに設定されている場合は緑に変わります。)

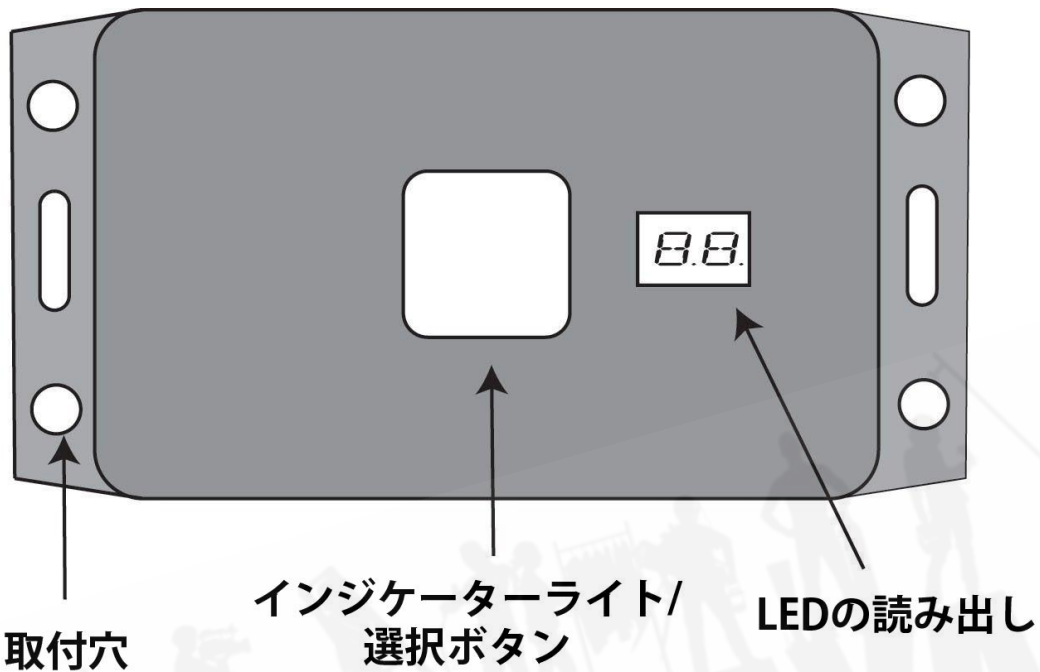
確認機能

確認機能を使用することで、パフォーマーもしくは舞台裏のスタッフでキューライトできっかけを受ける人物がキューライトを見たことを確認できるため、きっかけを出す舞台監督やキューライトコントローラーの担当スタッフがキューを受ける人物の準備ができていることを認識できます。

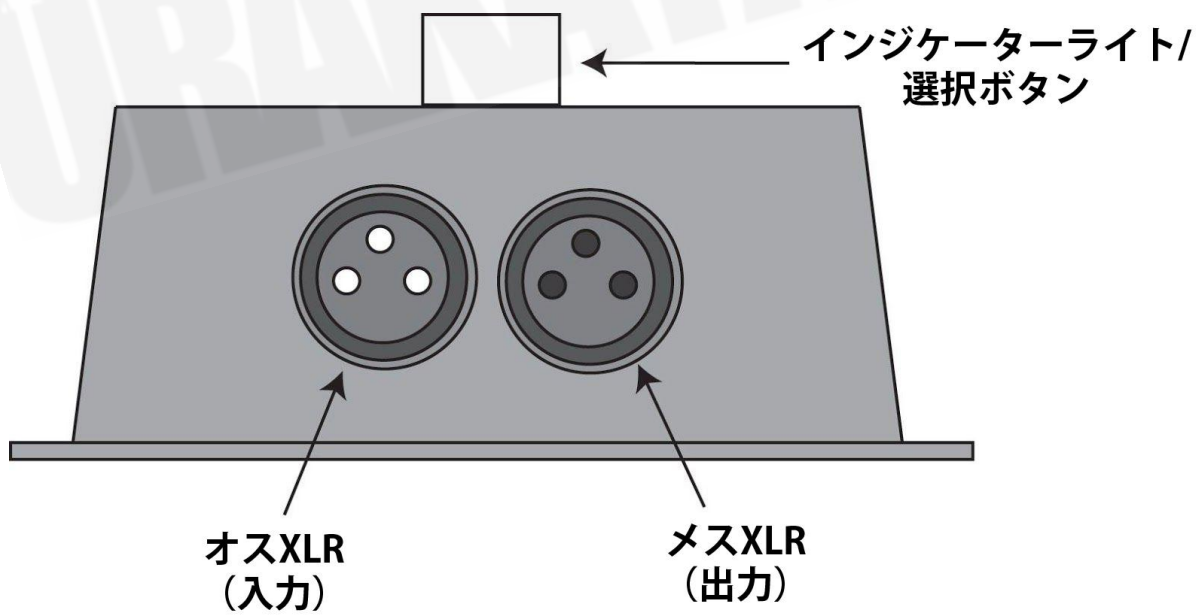
- 確認機能を使用するには、いずれかのチャンネルの”Standby”ボタンを2回押すシステムです。
- 1回目:”Standby”ボタンを押すとコントローラーのLEDインジケーターが点灯し、対応するキューライトがオンになります。(または、キューライトがRed/Green/BlueまたはRed/Greenモードの場合は赤に変わります。)
- 2回目:”Standby”ボタンをもう一度押すと、コントローラーのLEDインジケーターが点滅し、対応するキューライトが点滅します。
- パフォーマーもしくは舞台裏のスタッフでキューライトできっかけを受ける人物がキューライトボタンを押すと、コントローラーのLEDインジケーターの点滅が止まります。
- コントローラーの”Go”ボタンを押すと、キューライトがオフになります。(または、Red/Green/BlueまたはRed/Greenの場合は緑に変わります。)
- 3回”Standby”ボタンを押すことにより点滅は解消され、Standbyモードに戻ります。

3. キューライト

上面図



側面図



取付穴

パネルの裏面にネジで取り付けたり、紐で吊るしたりできるよう取り付け穴をご用意しました。

インジケータライト/選択ボタン

インジケータライトは、3色のLEDで、選択ボタンとしても機能します。詳細については、次のセクションを参照してください。

LED読み出し

LED読み出しは、メニューをナビゲートするときにカラーまたはアドレスを示すために使用されます。QL1の電源がオンになり、正常な信号を受信すると、読み取り値の小数点が点灯するため、ケーブルによる問題のトラブルシューティングに役立ちます。

カラーモードの選択

キューライトのカラーモードの選択は簡単です。

コントローラーからのケーブルを差し込むときに選択ボタンを押し続けるか、コントローラーの電源スイッチをオンにするときに選択ボタンを押し続けます。

インジケータライトが赤に変わり、小文字の"r"がLEDディスプレイに表示されます。ボタンを離してもう一度押すと、次の色に進みます。設定したい色が表示されるまで続けます。好みの色になったら、キューライトを抜くか、電源を切ります。電源を入れ直すかプラグを差し込むと、選択したカラーモードで動作します。キューライトは、そのカラーモードを記憶します。次のページの図は、各カラーと各カラーモードの表示内容を示しています。



Red/Green/BlueとRed/Green モード

Red/Green/Blueモードになっている場合、キューライトが”Standby”モードになっていると、インジケータライトが赤く点灯します。”Go”モードに入ると、インジケータライトが緑に点灯します。”Go”ボタンを2回押すか、コントローラーのマスタークリアを押すと、インジケータライトが青に点灯します。

キューライトをRed/Greenモードにすると、操作はRed/Green/Blue モードと同じになりますが、インジケータライトが青にならず、OFFになります。

アドレスの選択

LogiCue6には最大6つまでの異なるアドレス、LogiCue12には最大12つの設定が可能で、接続されている順序に関係なく個別に制御できます。アドレスを設定するためには、キューライトをコントローラーに接続し、電源をONにしてください。キューライトが点灯し、小数点が1つ表示されたら（電力と信号を受信していることを示すため）、LEDディスプレイに数字が表示されるまで選択ボタンを長押ししてください。ディスプレイに表示される最初の番号は、キューライトにプログラムされた最後のアドレス番号です。セクターボタンを離し、もう一度ボタンを押すと、次のチャンネルに進みます。希望のチャンネルに到達したら、約5秒間待ちます。アドレスが内部メモリに記憶され、表示が小数点以下1桁に戻ります。



キューライトはLogiCue6とLogiCue12コントローラーのどちらにでも使用可能です。

セルフテスト機能

セルフテスト機能によりすべてのキューライトが接続され、適切にアドレス設定されていることを確認することができます。すべてのキューライトにアドレスを設定後、電源スイッチをオフにしてから再度オンにします。

正常にシステムが稼働している場合（キューライトが接続されてアドレス設定されている）、各”Go”ボタンの上にあるLEDが緑に点灯します。

電源を最初にオンにしたときにコントローラーのLEDのいずれかが点灯しない場合は、キューライトへのケーブルが外れているか、アドレス設定がされていない可能性があります。

インジケータの明るさ

LogiCue12のLEDインジケータの明るさは調整可能です。

明るさを調整するには、コントローラーの電源をオフにした状態で、“Master Go”ボタンを押しながら電源スイッチをオンの位置にします。下の写真のように、LEDインジケータは12の異なるレベルの明るさを表示します。

LEDインジケータの下にある“Standby”ボタンを押して、希望の明るさのレベルを選択します。“Master Clear”ボタンを押してこのモードを終了するか、電源スイッチをオフにしてから再度オンにして通常の操作を再開します。



DMX出力

機能と利便性を高めるために、LogiCue12にはコントローラーの背面に5ピンDMXコネクタがあります。

DMXコネクタは、DMX-512を出力します。DMX出力を使用すると、LogiCue 12コントローラーを使用して、キューライト以外の他のデバイスのオンとオフを切り替えることができます。最初の12のアドレスは、単純なオン/オフ状態でLogiCueステータスを出力します。LogiCueチャンネルがスタンバイの場合、そのアドレスのDMX出力は100%になります。“Go”ボタンを押すと、対応するアドレスのDMX出力は0%になります。次の12のアドレスには、LogiCueシステムの将来のアクセサリに使用される生のLogiCueデータが含まれています。

4. トラブルシューティング

コントローラーがオンにならない

コントローラーの電源が入らない場合は、キューライトに接続されている出力マイクケーブルを抜いてください。コントローラーの電源をオフにしてから、再度オンにします。コントローラーがオンになっている場合、問題はケーブルの不良です。正常なケーブルをコントローラーに接続することから始め、最初のキューライトを接続し、他のすべてのキューライトにリンクされているマイクケーブルを抜いてください。コントローラーと最初のキューライトが機能する場合は、不良ケーブルが見つかるまで、残りのケーブルを1つずつ確認します。

コントローラーはオンになるがキューライトは機能しない。

正常なケーブルをコントローラーに接続することから始め、最初のキューライトを接続し、他のすべてのキューライトへ連結されているマイクケーブルを抜いてください。最初のキューライトが機能する場合は、不良ケーブルが見つかるまで、残りのケーブルを1つずつ確認します。ディスプレイには、キューライトが電力と信号を受信していることを示す小数点が1つあることを確認してください。

すべてのキューライトがスタンバイに応答してチャンネルナンバー1のみに反応する。

キューライトは出荷時の初期設定では、デフォルトで1に設定されています。アドレスを設定すると、メモリに記憶されます。

コントローラーの電源をオンにしたときに、1つまたは複数のLEDが緑で点灯しない。

正常に稼働している(キューライトへのマイクケーブルが接続されてアドレス設定されている)キューライトが接続されている場合、コントローラーのインジケータは緑色に点灯します。例えば、コントローラーのチャンネル1の"Go"ボタンの緑のライトが点灯しない場合は、キューライトナンバー1のプラグが抜かれているか、キューライト1のアドレスが誤って別の番号に変更された可能性があります。すべてのキューライトが接続され、電源がオンになっていて、正しくアドレス指定されていることを確認して下さい。